

第1回

「倉吉未来中心の在り方研究会」

報告

期 日 平成 25 年 1 月 20 日 (日) 15:30~17:30

会 場 リフレプラザ倉吉 1F 集会室

司 会 桑田幸人氏 (倉吉文化団体協議会 副会長)

討論パネラー中野 隆 倉吉市市議会議員 渡辺法子 倉吉市市議会議員
日野節太郎 はとや楽器 社長 増田純吾 スイコー商会 社長
吉田奈穂美 リトルバレリーナ代表 計羽孝之 倉吉文化団体協議会
尾崎正平 倉吉文化団体協議会

□開会に当たり主催者サイドより、倉文協副会長の尾崎正平があいさついたしました。

その後司会者による参加者紹介があり、基調提案が次のようでありました。

○基調提案⇒「倉吉未来中心の運営を考える」

1980 年 12 月、倉吉文化団体協議会の設立準備と同時に定住文化センター推進のための第 1 回の会合が持たれました。

1981 年 5 月に倉文協が設立され、翌月には「定住文化センターを進める会」が発足しました。その意向を受けて倉吉市長は市議会に上程し、継続審議が担保されました。

1982 年、倉文協内に「定住文化センター専門委員会」が発足しました。

1996 年 3 月、「定住文化センター(仮称)建設に関する懇談会」が開催されました。

1997 年 1 月、「定住文化センター(仮称)建設に関する懇談会」が開催されました。

1997 年 2 月、「定住文化センター(仮称)建設に関する懇談会」が開催され、平面図と立体模型が示され、様々な利用者サイドからの注文が出ました。

1998 年 8 月、「定住文化センター(仮称)利用促進協議会リーダー会議」が開催されました。

1999 年 11 月「定住文化センター(仮称)利用促進会議」が開催され、オープニング・イベントについて審議しました。官民一体になっての運営が主張されました。

その後の会で、正式名称等が決定し、運営は文化振興財団が中心となり、倉吉市からの職員出向が決まりました。

2001 年、倉吉未来中心がオープンしました。

2002 年 3 月、初めての倉吉未来中心利用促進協議会が開催されましたが、中部の文化活動者が望んでいたような会合ではなく、単なる貸館としての効率化を促進するための意見聴取の会でしかなく、運営には全く関与できないものでした。その仕組みが、現在まで続いております。

※中部地区文化活動者が望んでいた、中部地区の芸術文化の拠点施設として機能させる事は、これまでの運営では全く見られない現実が続いています。基本的に私たちが考える「倉吉未来中心の理想的な運営」は、地域の文化活動の拠点化であり、日常の芸術文化活動の場となることです。そのための方策として

①柔軟なホールミッションを持つこと

②中部地区自治体のアイデンティティとロイヤリティを高めること

この 2 つが大切なのです。

また、ホール運営は戦略的に行うことなどが提案された。結論を要約すると、倉吉未来中心の運営が、中部地区に特定した活動が可能となることです。そのためには、倉吉未来中心設置条例の目標を改定し、公募化されて、最適な団体に運営させるべきとのことでした。

□パネラーによる意見発表がありました。

- ①中野隆氏は、未来中心の運営について、前市長の考え方(全額県費で運営)や、現在の負担金についての在り方について述べられました。
- ②吉田奈穂美氏は、現在の利用についての問題点を指摘し、単なる貸館(リハーサル室の使用料が高すぎて、普段の練習としては使えない)ではなく気楽に集まることのできる地域の拠点になるべきとの意見でした。
- ③渡辺法子氏は、先回の更新時に、地元の団体に運営を任せることについては反対した。公募し、未熟な運営がなされれば、芸術活動者のレベルが担保出来ないとの意を表明された。現状分析として、倉吉のレベルは低いし、運営のノウハウがない。何よりも文化活動者の結集がなく、文化レベルの問題があるとの主張でした。
- ④日野節太郎氏は、現在の未来中心には事業費が存在せず、中部地区で活動する文化人のためには、市民からの寄付が必要。寄付への誘い方法等を検討しなくては…。未来中心の立ち上げ時から、地域文化の振興が運営の検討があったのか疑問である。設立の利用目的に合った運営をするべき。
- ⑤増田純吾氏は、未来中心の運営のサービス向上を図るには、やはり指定管理者を公募し、プロポーザル方式での運営提案を競わなければ、良い結果は生まれないと述べられました。

その後、尾崎正平及び計羽孝之が現状の問題点(地方自治法 244 条の 1 で規制された平等の原則)を具体的に述べ、地域文化活動者の継続的な活動拠点になりえないことを示しました。

□意見交換がありました。

パネラーに対する質疑やパネラー間での討論があり、参加者を交えての討論が行われ、まとめとして「倉吉未来中心は地域の拠点化とすべきである」と方向付けされました。

□次回のテーマ設定については、理想的な「倉吉未来中心の運営の具体案を」話し合うことになりました。

以上、報告いたします。

次回は、2013年2月10日です。